

報道機関各位

一般財団法人 とうほう地域総合研究所
理事長 阿部 隆彦

第10回「ふくしま景気ウォッチャー調査」アンケート結果について

当研究所では、街角の景況感調査として、標記アンケートを10月に実施しました。内閣府の景気ウォッチャー調査では県別の数値が公表されていないことから、同調査の「福島県版」として当研究所で独自に実施しているものです。本調査は2014年6月に開始、以降、4月と10月の年2回、一般消費者と身近に接している小売業や飲食業などの家計動向関連の方に回答対象者を限定し実施しております。

今般、調査結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」12月号(11月28日発行)に掲載するとともに当研究所ホームページでもご覧いただけます。

1. 消費動向

ウォッチャー（アンケート調査回答者）が、日々の仕事を通じて接している顧客の様子から把握できる消費動向（購買状況）について尋ねた。

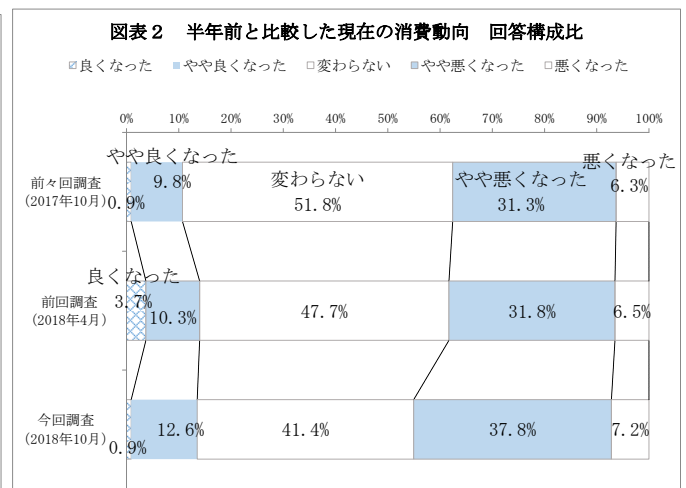
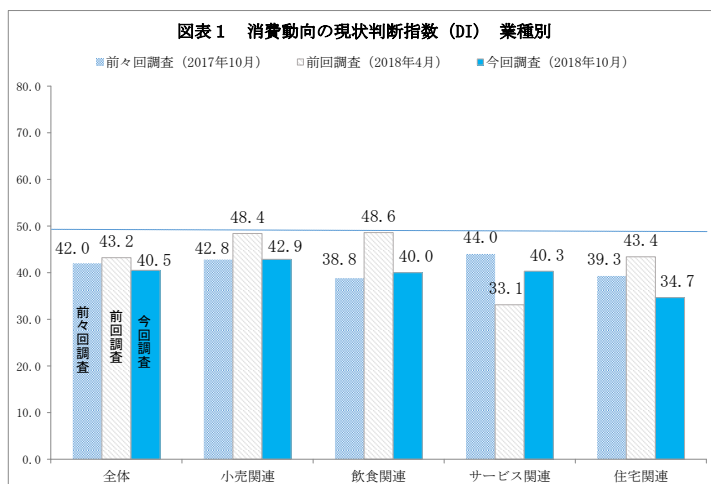
(1) 消費動向の現状判断（半年前と比較した現在）

前回調査比やや低下し、7回連続で「下降局面」と判断された。

- 消費動向の現状判断指数は40.5（前回調査比△2.7ポイント）とやや低下し、横ばいを示す50を7回連続で下回った（図表1）。
- プラス判断したウォッチャーが1割強である一方、マイナス判断したウォッチャーが5割近くと、現状の消費動向を厳しく判断しているウォッチャーが多い（図表2）。

◇業種別

- 今回調査ではいずれの業種も50を下回り、下降局面であると判断された。前回調査で横ばい（50）近くまで上昇した小売関連と飲食関連が再び下降した（図表1）。
- マイナス判断した理由としては「来店客数の減少」が8割を占め（複数回答）最も多かった。



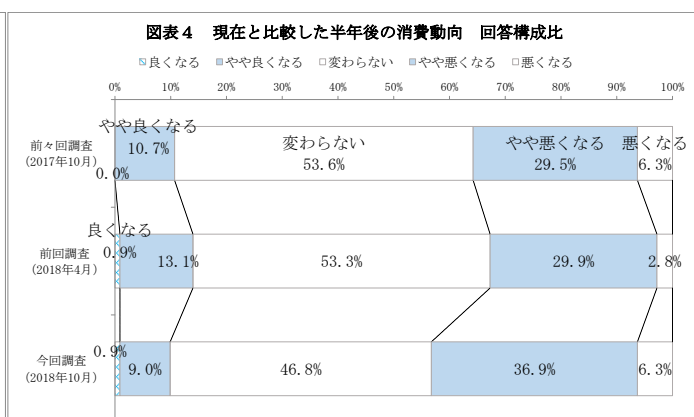
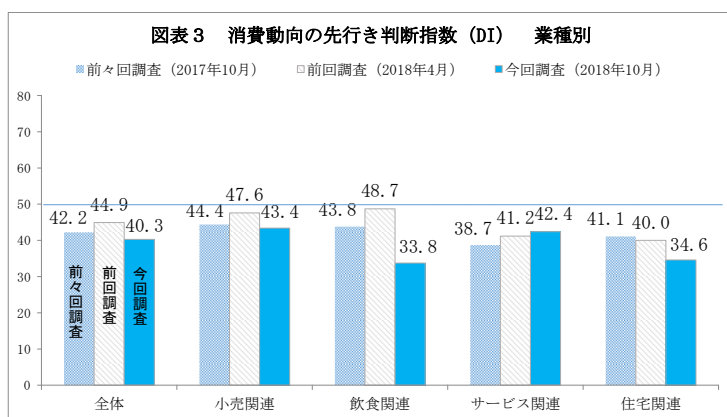
(2) 消費動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

現状判断と同様に「下降局面」と判断された。

- 消費動向の先行き判断指数は 40.3（前回調査比△4.6 ㊦）と下降し、横ばいを示す 50 を下回り、現状判断と同様に「下降局面」と判断された（図表 3）。
- プラス判断したウォッチャーが前回調査比 4.1 ㊦減少したのに対し、マイナス判断したウォッチャーが同 10.5 ㊦増加したことで、判断指数が悪化した（図表 4）。

◇業種別

- 今回調査では、7 回連続で全業種が下降局面と判断される 50 を下回ることとなり、最も指数が高い小売関連でも 43.4（同△4.2 ㊦）にとどまるなど、先行きが厳しく判断されている（図表 3）。
- マイナス判断した理由について、「来店客数の減少」（64.6%）が最も多くあげられた（複数回答）。



2. 景気動向

ウォッチャー自身の回りの景気（経済情勢）について尋ねた。

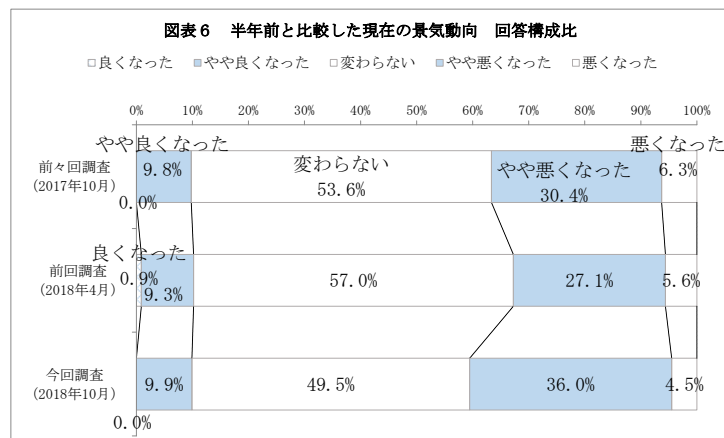
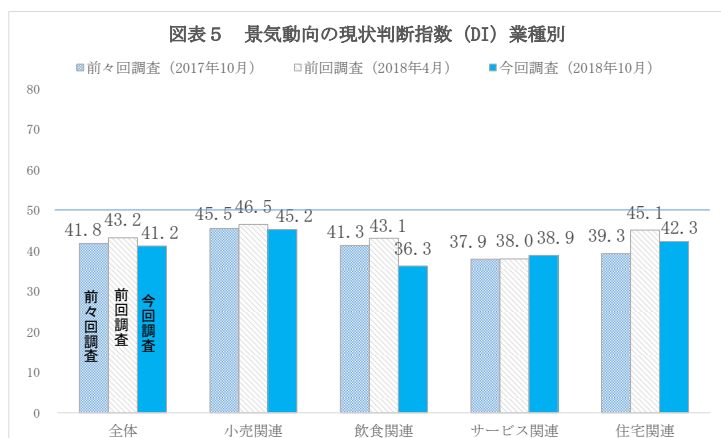
(1) 景気動向の現状判断（半年前と比較した現在）

前回調査比で判断指数が悪化し、引き続き「下降局面」と判断された。

- 景気動向の現状判断指数は 41.2（前回調査比△2.0 ㊦）と、「横ばい」を示す 50 を下回り、下降局面と判断された（図表 5）。
- プラス判断したウォッチャーが前回調査比 0.3 ㊦減少するとともに、マイナス判断したウォッチャーが同 7.8 ㊦増加したことで判断指数が悪化した（図表 6）。

◇業種別

- いずれの業種も 50 を下回っており、最も高い小売関連でも 45.2（同△1.3 ㊦）であった（図表 5）。



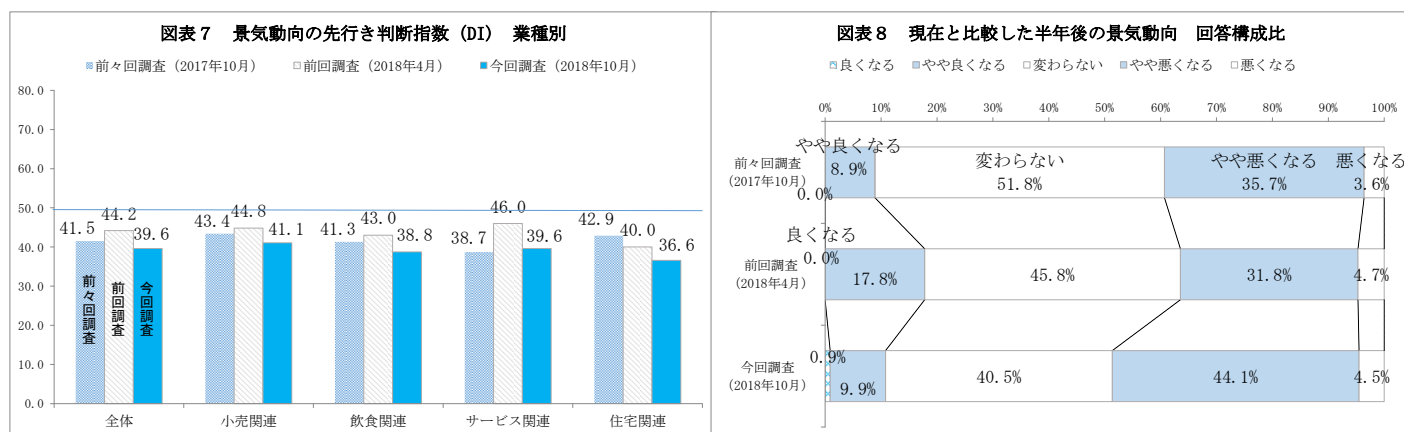
(2) 景気動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

前回調査より悪化しており、先行きを厳しく判断するウォッチャーが多い。

- ・景気動向の先行き判断指数は 39.6（前回調査比△4.6 ㊦）と、横ばいを示す 50 を下回り、下降局面であると判断された（図表 7）。
- ・プラス判断したウォッチャーが 7.0 ㊦減少するとともに、マイナス判断したウォッチャーが 12.1 ㊦増加したことで、判断指数が悪化した（図表 8）。

◇業種別

- ・すべての業種が 50 を下回り、最も高い小売関連でも 41.1（同△3.7 ㊦）にとどまり、その他は判断指数が 30 台となった（図表 7）。



3. 地域別の消費・景気動向

相双地域の消費動向の現状で「上昇局面」と判断された以外はすべて「下降局面」と判断された。

◇消費動向現状判断

相双 50.1（前回調査比+15.7 ㊦）を除き 50 を下回っており、特にいわきは 31.6（同△11.7 ㊦）と大きく下降した（図表 9）。

◇消費動向先行き判断

最も高い相双でも 46.4（同△6.7 ㊦）にとどまるなど、すべての地域が 50 を下回っており、どの地域でも下降局面にあると判断されている（図表 9）。

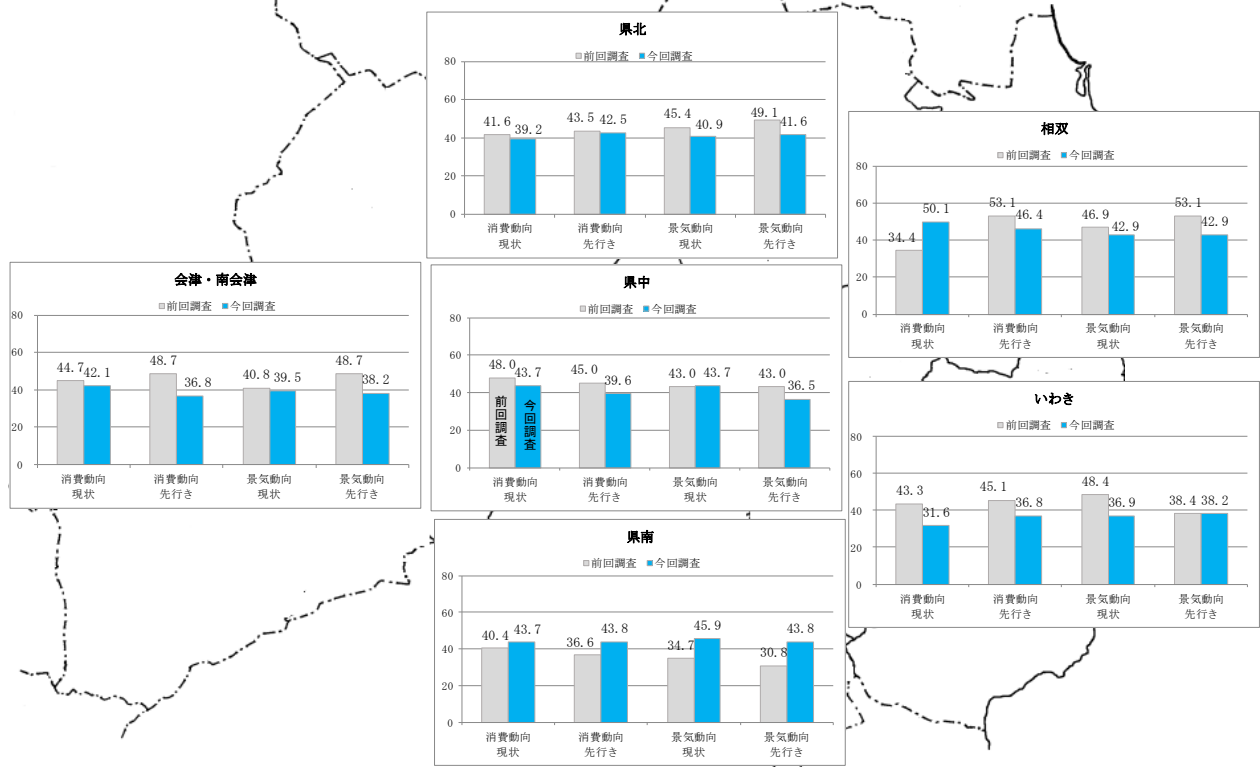
◇景気動向現状判断

最も高い県南でも 45.9（同+11.2 ㊦）と、すべての地域が横ばいを示す 50 を下回っており、下降局面にあると判断された（図表 9）。

◇景気動向先行き判断

すべての地域で 50 を下回り下降局面になると判断され、最も高い県南でも 43.8（同+13.0 ㊦）にとどまった（図表 9）。復興関係者の減少、消費者の節約志向など、消費活動への懸念材料があることにより、県内全般的に景気動向の先行きが厳しく判断されている。

図表9 地域別の消費動向・景気動向判断指数 (DI)



4. まとめ

◇ 内閣府の景気ウォッチャー調査（2018年10月調査、毎月実施）の家計動向関連についてみると、景気の現状判断DIは48.9（前月比+1.8ポイント）、景気の先行き判断DIが50.9（同+0.1ポイント）と発表された。調査時期が内閣府と当研究所で異なっているものの、当研究所調査では現状判断DIが40.5（前回調査比△2.7ポイント）、先行き判断DIが40.3（同△4.6ポイント）と、本県においては復興需要のピークアウトなどの影響から、全国に比べ厳しく判断されており、横ばいを示す50を下回り下降局面にあるものとみられる。

ただし、日銀短観をみると、県内企業の業況判断DIは2011年12月以降プラス値となっており、直近（2018年9月）において全国が+15、福島県も+5とともにプラス値となっている。

◇ 今回の調査では、本県の消費動向と景気動向に対するウォッチャーの判断について、復興需要がピークアウトしたことや消費マインドの減退などから、前回調査に比べて判断指数が悪化したものと考えられる。

ウォッチャーから寄せられた「街の声」からは、人口減少に加えて復興関係者が減っていること、消費者が慎重になり欲しいものだけを買っていることなど、消費動向を取り巻く環境が厳しくなっていることが感じられた。定住人口が減っている分は地域外からの観光客など交流人口を増やすことで補うことも可能であるが、まずは地域住民の自発的な消費につながる先行きの不安感を解消させる施策が求められる。

※DI (Diffusion Index) …本調査では、現在と比較した半年前または半年後の方向性を点数化し、50を上回れば上昇局面、50を下回れば下降局面と判断している（P5の5番の判断指数の算出方法を参照）。

以上

○調査要領

1. 調査対象者

県内の景気の動きを実態面から敏感に観察できる立場の方134名

2. 回収状況

有効回答数 111 名 回答者の業種・地域内訳は6・7のとおり
回収率 82.8 %

3. 調査時期

2018年10月
(年2回、4月と10月に実施)

4. 調査内容

- (1) 半年前と比較した現在の消費動向
- (2) (1)の判断理由
- (3) 現在と比較した半年後の消費動向
- (4) (3)の判断理由
- (5) 半年前と比較した現在の景気動向
- (6) 現在と比較した半年後の景気動向

※(1)(3)(5)(6)は5段階評価による回答とする。

※本稿では、消費動向は日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる購買状況、景気動向は回答者の身の回りの経済情勢のことを指す。

5. 判断指数(DI値)の算出方法

5段階の回答区分に、それぞれ下図のとおり点数を与え、それらに各回答区分の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。

DI値は50を判断の目安としており、50を上回っていれば上昇局面、50を下回っていれば下降局面と判断する。

回答区分	良くなった 良くなる	やや良くなった やや良くなる	変わらない	やや悪くなった やや悪くなる	悪くなった 悪くなる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

6. 調査回答者の所属分野・業種

分 野	調査対象者の代表的な業種
小売関連 (42名)	一般小売店 スーパーマーケット コンビニエンスストア など
飲食関連 (20名)	料理店 酒場 など
サービス関連 (36名)	旅館・ホテル タクシー 娯楽 理美容 など
住宅関連(13名)	住宅・不動産販売

7. 対象地域の区分

地 域 (調査回答者数)	市 郡 名
県北(30名)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡、安達郡
県中(24名)	郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡、石川郡、田村郡
県南(12名)	白河市、西白河郡、東白川郡
会津・南会津(19名)	会津若松市、喜多方市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、南会津郡
相双(7名)	南相馬市、相馬市、双葉郡、相馬郡
いわき(19名)	いわき市

本件に関する質問・お問い合わせ先

担当：高橋

TEL 024-523-3171